

## 古内広雄

謹んで長友古内広雄君の靈にお別れの言葉を申し上げます。

去る十一月五日、私は全国遊説の途次、羽田空港の控室で、君の突然の訃報に接しました。秋の訪れとともに、政局はにわかには緊張の度を加え、君も三度目の挑戦に備えて、周到な準備を進めておりました。

君の高潔な人格と高邁な識見、さらには誠実一筋の政治活動は、広く、深く、郷土の人々の心を捉え、この度の戦いは、君にとっては、未だかつてない成功が約束されているように思われていたのであります。その君が突如として病に冒されたと知るや、郷土の支持者はもとより君の後援者や私たち同志一同は、驚愕のあまり自らの耳を疑ったほどであります。時間がたち、いよいよそれが事実であることを知るに及んでも、一日も早い回復を確信していたのであります。

しかるに、天は無情にも、君に致命的な病いをもたらし、ついには、君からその出馬の機会をも永久に奪い去ってしまったのであります。

私たちは日頃の君が、外柔内剛、内に秘めたる計りしれない情熱と不屈の魂の持主であることを知っております。それだけに、この悲運に際会した君の胸中に想いを馳せ、余りにも残酷な天の仕打ちに唯々呆然自失するばかりでありました。

去る八月十八日、君の郷土岩沼市では、君が防衛政務次官の要職に就かれたのを記念し、市を挙げて祝賀の提灯行列を行なう予定であったと聞いております。しかるに君は、その晴れの日に欠席せざるを得なかったということです。

それから三カ月半、富美夫人、愛嬢裕子さんご夫妻を始め、防衛庁の方々等の心を尽し、肝胆を砕いた看護は昼夜の別なく続けられたのでありますが、君は遂に再び立つことができなかつたのであります。

ご遺族の方々のご傷心は申すまでもなく、苦楽を共にした同志一同と、君を常に敬慕の念をもつて激励を惜しまれなかつた後援会の皆様の落胆を思うにつけても、私にはお慰めする言葉もありません。ただ君に対する欽慕の念と、君との間に生まれた玉のように美しい友情に感謝の思いを新たにするだけであります。

古内君、君は、伊達六十二万石の宿老の名家に生まれ、二高から東大を経て、外交界に入り、オーストリー、パキスタン、インドネシアの大使等を歴任されました。

君の外交官時代は、戦争の準備とその遂行、敗戦とそれからの復興という、わが国にとっては、空前にして絶後ともいふべき嵐の時代でありました。その間に処して、君は、その卓越した才幹とくにその秀れた語学力を遺憾なく發揮して、わが国の名譽のために主張すべきは主張し、わが国に対する世界の理解を深めるために心を砕いて力を致されました。

また、君は任地の人情と風物を愛し、その国の文化や芸能にも造詣が深く、任地の政府要人はもとより、多くの人々の敬愛の的となりました。

君がオーストリー大使を辞任して帰国する時、カラヤンを始めとするウィーン交響楽団が、雨の降りしきる空港に「別れのワルツ」を演奏して君との別離を惜しんだことは、有名な逸話であります。君の音楽に対する理解は、全く玄人の域に達していたのであります。

常人であれば、君は教養豊かな人として、或いは有能な外交官として雅致に富んだ人生を生き抜き、その生涯は倅せなものであつたにちがいないと思ひます。然るに君は、敢えて報われることの少ない政治家への道を選ばれたのであります。

君がインドネシアの大使をしていた時、君の資質に期待して政界入りを勧めたのは、今はなき池田総理であり、君が決意を秘めて退官した時の外務大臣は、他ならぬ私でありました。

それから九年間の君の辛労は、全く筆舌を絶するものであります。そして幾度かの苦杯、重

なる辛酸を経て、漸く国政の場に揺るぎない地歩を確立することができ、凡てはこれからという時、君は天の奪うところとなつたのであります。

君が主張し続けていた日中国交の正常化も成り、日本の外交は世界大の裾野をもつに至つた今日、私たち一同は、君をどんなに頼りにしていたことでしょうか。君もまた、これからの活動に心中深く期するものがあつたことと信じます。然るに無常な天は、何の予告もなく、君を鬼籍に回収してしまつたのであります。

今、私は、盛夏七月十三日に政務次官就任を祝い、その歳末には君を不帰の客として送る悲しみをかみしめております。人の世のはかなさと転変の現実を眼のあたりにして、天意の測り難さに、ただ天を仰いで慨嘆するばかりであります。

私たち同志一同は、来たるべき困難な政局に立ち向かう決意を新たにしております。そして、その戦列に君の英姿を見ることのできないことを最大の痛恨事であると思つております。心なしか今年の師走の風は、われわれ同志一同にとって、ひとしお厳しいもの感じられます。

しかし、古内君。

君は、その生涯を真実一路、文字どおり至誠をもつて一貫されました。これに加うべき何物もなければ、それから削除すべきものも全くありません。いわば君は、完璧な生涯を全うされたと

申すべきでしょう。そして、今、限らない忍耐と崇高な努力の末に永遠の眠りにつこうとしているのであります。

古内君、君はなすべきことを立派に果たされたのであります。君の遺志は、私たち同志一同が必ず受けついで、君の期待に応えてまいる覚悟であります。

どうか、安らかにお眠り下さい。